

日々是 宇和島 (33)

児童館、開館へ。

いよいよこの10月から、宇和島市立児童館が開館します。昨年の4月には「パフィオうわじま」の4階に「子育て世代活動支援センター」を開設し、子育て世代の皆さんに利用していただいているところですが、今回の施設は、児童福祉法に基づく児童福祉施設という意味においては、当市で初めての児童館となります。場所は津島町清満地区、3月末に廃止となった旧清満幼稚園の園舎を利活用し、急いで整備を進めてきました。

この施設のコンセプトは「木育に取り組む児童館」であり、館内には南予産材による木製遊具があふれ、普段から愛媛の山で育った木々に触れ、遊び、学ぶことができることはもちろん、機会を捉えて開催される木育に関するイベントや木工ワークショップなども通じて、子ども達の健康の増進と情操を豊かにすることを目的としております。

このような背景のもと、先日、この施設の愛称の最終選考会が開



催されました。174の応募作品から一次選考を勝ち抜いた6作品の中で、どの作品がこの施設のイメージに最もふさわしく親しみやすいか、7人の委員それぞれが評価し、その結果、最優秀賞として「こもりん」が選出され愛称として決定しました。作者からはこの作品を応募するにあたり、「子(こ)どもが集まる場所、木育から森(もり)、林(りん)を合わせて呼びやすい愛称を考えました。優しいイメージのひらがな表記としました」と説明がありました。優しい響きの中にもこの施設のあり方そのものを端的に表現しているのではないのでしょうか。

この施設を、子どもたちはもちろんのこと、多くの人たちに親しまれる場所にしていきたいと考えていますので、皆さんぜひ利用してください。



パーティークラッカー

国内のクラッカーのほとんどが宇和島で作られているのを知っていますか？

市内にある株式会社カネコで国内シェア約90%のクラッカーが作られています。オーソドックスなタイプから音だけのものや散らからないタイプ、中身や形もさまざままでバラエティ豊かな製品が開発されています。10月からは市ふるさと納税の返礼品にも採用されました。新型コロナウイルス感染症の影響でステイホーム時間が多くなっている中、クラッカーを鳴らして少しでも明るく過ごしませんか。

クラッカーの歴史

1846年、ロンドンで菓子職人をしていたトム・スミスが、お菓子の包みをヒントに丸い筒の中に音花火とおもちゃなどを入れ、包装紙で包み両端をねじって作ったキャンディー型の両引きクラッカーが発祥とされています。大正中期に日本で三角錐型のものが開発され、戦後、進駐軍たちによって国内に広まりました。現在も若者を中心にクラッカー需要は増加傾向にあります。

